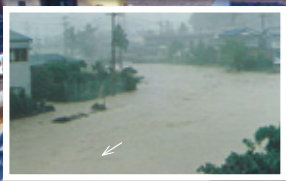


てくてく太田川

第18号
2019
平成31年3月1日
発行部数 132,000部

昭和57年台風18号の甚大な被害



▲かつての逆川 (S57/旧馬場橋付近)

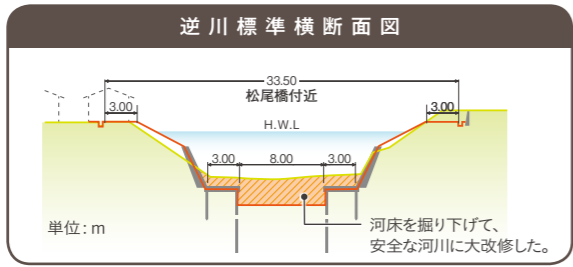
心配な河川から 安全な河川へ!



▲旧松尾橋より上流を見る。(S57) 一部、護岸崩壊により建物が倒壊した。



▲安全な逆川に生まれ変わった。



逆川標準横断面図

河床を掘り下げて、安全な河川に大改修した。

昭和57年9月、掛川市を直撃した台風18号は雨量571mm、死者2名、重軽傷者11名、床上・床下浸水2431戸を超える未曾有の大災害となり巨額な損失をあたえました。まだ生まれていなかった私は、当時の様子を聞くため、掛川市役所の小林さんを訪ねました。

このことから今後私たちは、整備された逆川に安心すること無く、異常気象に対応しなければなりません。

▲デザインされた瓦橋の親柱

掛川市役所 都市建設部 事業調整室 桑田 進

てくてく太田川のブログにアクセス!!
http://ohtagawada.hamazo.tv/

掛川

特集

忘れてはいけない 災害の記憶



写真等引用: 『S57.9.12台風18号災害記録誌』 S59.02発行



記憶に刻みたい 「逆川」のはなし

袋井土木事務所 河川改良課



増田 貴文

川を愛し備える

掛川市役所 小林 隆さん

西日本地域で大規模な災害が発生したことを機に、太田川水系で過去に発生した災害について振り返ってみたいと思います。掛川市内の逆川では、昭和57年(1982年)9月12日に上陸した台風18号の直撃による洪水で甚大な被害を受けました。この災害は、西日本豪雨と同様の「激甚災害」に指定され、昭和61年度までの短期間に逆川大改修が完成しました。延長1800m、総事業費は約40億円。隣接した掛川駅北土地画整理事業と同時進行し、その後の東海道新幹線掛川駅開業、掛川城天守再建等と続き、街の様相も劇的に変わっていききました。



▲図1 中世の太田川低地の古地図図



▲図2 西向遺跡の洪水堆積物

1 万年前 当時の太田川流域は、現在の浜名湖のような真水と海水が交じり合う入り江でした。
2 古墳時代 この入り江が太田川の主流から流されてきた泥によって、次第に埋め立てられて、湿地に変化して行きました。
3 戦国時代 湿地の北側は埋め立てにより陸になりましたが、太田川は洪水を繰り返しながら、その流路を変えていきました。図1は中世の古地図で、低地のいたるところに川が網の目のように流れていた様子が描かれています。この時代には、洪水が繰り返して発生しました。
4 江戸時代前期 人々は大雨による洪水や台風による高潮を防ぐため、大土木工事を行い「浅羽大田堤」と呼ばれる長さ約12.7km、高さ5.4mの長い堤防を造りました。
5 江戸時代後期 堤防の建設により、洪水は減りましたが、それでも江戸時代には3回ほど大洪水がありました。図2はそのうちのひとつで、袋井市の西向遺跡で発見された江戸時代の洪水によって堆積した厚い砂の地層です。

袋井土木事務所 トピックス

軟弱な地盤に挑む土木のちから!!!

袋井土木事務所 河川改良課



渥美 元貴

袋井土木事務所河川改良課では、二級河川太田川水系の河川改修や維持管理を行っています。太田川水系の中の一つに、袋井市を流れる沖之川があります。沖之川は、河川勾配が緩いため洪水時に下流に水を流す能力が低く、台風等の大雨により上流域で浸水被害がたびたび発生しています。そこで浸水被害解消のため川幅を拡げ、河床を下げる工事を行っています。沖之川は、工事をすると機械が沈んでしまう程地盤が悪く、一般的なコンクリートブロック積護岸では、ずぶずぶと沈んでいってしまいます。このため、鋼矢板圧入工法による護岸工事を行っています。鋼矢板圧入工法とは、矢板(鋼製の板)を特殊な機械で地中深くに打ち込み護岸の基礎とする工法です。幅60cm、長さ約10mの矢板が何本も打ち込まれる姿は圧巻です。



編集局員も募集しています!

編集会議では、新しい出会いや知識共有の場を提供します!!

ご意見、ご感想をお送りください。また、太田川水系の川に関する情報や、感動的な写真もあわせて募集します。太田川情報編集局事務局まで。

ブログ・Facebookもやってます!!

発行日 2019年3月1日
発行所 静岡県袋井土木事務所
〒437-0042 袋井市山名町2番1号
TEL 0538-42-3289 FAX 0538-43-0919
E-mail: fukudo-kasen@pref.shizuoka.lg.jp
URL: http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki/fukuroi/

編集 太田川情報編集局 袋井土木事務所 河川改良課内
編集局員 袋井市 青島 晃 足立隆文 安岡美恵子 大石佳典 小林和昭 永井正裕
袋井市 浅羽俊光 渥美元貴 鈴木敦子 鈴木恭平 堀田雅裕 増田貴文 門名親宏
掛川市 安藤凱夫 桑田 進 杉山嘉一 野中大輔 武藤君幸 森 町 岡庭 彩 辻 克美

第6回 青島晃の 地質学講座
磐田南高等学校教諭 青島 晃

「魚道」って 知ってますか?
武藤君幸

田原水車の里 だより
足立隆文

DOBO CLUB
土木 LOVE

QR code and contact information for the editorial board.

2019てくてく太田川ものしりクイズ
昭和57年の災害で、甚大な被害を受けた掛川城のすぐ近くを流れる河川は?
① 逆川 ② 沖之川 ③ ぼう僧川
正解を応募いただいた方の中から図書カード3,000円分を抽選で10名の方にプレゼント!ふるって応募ください!

太田川水系

ホテル自慢会議

2018年10月26日(金)
上垂木坂下公会堂



「上垂木ホテルの里」では、16年間試行錯誤を重ね、自分たちだけで活動してきましたが、「ホテルの飼育や「観賞会の運営」などの課題も多く、なかなか思うようにならない事も多くありました。今回、「太田川情報編集局」の企画で、同じ太田川水系で活動している「ひょうたん池自然をしよう会」とのホテル自慢会議のお話があり、ちょうど良い機会となりました。お互いの会の向上に繋がれば、お互いの活動を自慢するなかで、共通の課題や、今までの活動では知らなかった飼育の工夫などがあり大変参考になりました。また、なにより同じ太田川水系で、熱心に取り組んでいる方々がいることを知ったことは、今後の活動に対し心強いと感じました。
「上垂木ホテルの里」の活動が、地域の誇りとなるよう、今後も「ひょうたん池自然をしよう会」との交流を重ねたいと思います。



白熱した「太田川水系ホテル自慢会議」



榛村俊男さん

「上垂木ホテルの里」は、JR掛川駅の北約7キロ、森掛川ICから車で約10分の場所にあり、第17号で取材させていただいた磐田市の「ひょうたん池自然をしよう会」の皆さんと一緒に、「上垂木ホテルを守る会」の皆さんを訪ね、「太田川水系ホテル自慢会議」で熱く語り合いました。

Table comparing 'ひょうたん池自然をしよう会' and '上垂木ホテルを守る会' with columns for founding year, membership, and activities.



ホテル自慢会議の後、みんなでパチリ!



ホテル乱舞の現地視察

太田川水系では、ホテル観賞のハシゴをして欲しい。

エサとなるカワナノ確保に苦勞し、高温異常気象が続いた2018年の夏も乗り越え、幼虫が順調に生育してきました。2019年は本会が発足して25周年を迎えました。この記念の年、訪れて下さる皆さんに、いっしょに感動していただくような「おたる観賞会」を目指し、取り組んでいます。楽しみにして下さい!(ホテル観賞会:5月下旬から6月上旬予定)
問合せ先 西貝交流センター 0538-32-4853



ひょうたん池自然をしよう会(磐田市) 会長 金原和義さん

上垂木ホテルを守る会(掛川市) 会長 榛村俊男さん

掛川北部の新東名掛川PA近くの山あいに百体以上の石造観音様が祀られているのが「百観音」です。いわれは、明治のころ日清戦争が起ころ、村人たちが「戦争で遠くまで行くのは嫌だ」と嘆いたのを、当時の村の和尚さんが、托鉢して回り観音様を百体立て、出征兵士氏の安全を祈願したところ、全員が無事に生還したと。その後、太平洋戦争敗戦の後は、御利益がないのか忘れられ、地中に埋もれていたところ、地元旅館の主人が観音様を見つけ、平成7、8年のころ、現在地へ復元したとのこと。



山間に安置される観音像

川の堤防を歩いていると、時おり青や緑に輝く鳥を見かける事があります。川の宝石・飛ぶ宝石と呼ばれるカワセミです。「翡翠」という漢字は「ひすい」とも「カワセミ」とも読みます。太田川流域にも生息しています。あまり見かけない、いや気付かないでしょう。大きなくちばしと羽色が特徴で、太陽の光で目の覚めるような青色で輝いて飛ぶ様はまさに「晴れた日に、川に出かけて宝石探しも良いですよ。」



川の宝石「翡翠」



辻克美

なんと、またまた、太田川水系に架かる橋が映画の舞台になりました。「明日に架ける橋」少女が願いを込めて小さな橋を走り抜ける過去にタイムスリップし、家族の絆を取り戻すという話。ノスタルジーたっぷりな時代背景に、袋井・磐田・森の各地はベストマッチ! 見覚えのある景色や知り合いも出演していて、とても身近に感じ、思わず感情移入。なんとも温かい気持ちになりました。
今もその橋は袋井市内にあります。映画では「明日橋」、通称「もぐり橋」二級河川原野谷川に架かる小さな橋です。たもとにメロン公園のある和橋の上流約450mの所にあります。
原野谷川の堤防は、散歩にお勧め!



▲袋井市方丈にある通称「もぐり橋」

なんと、またまた、太田川水系に架かる橋が映画の舞台になりました。「明日に架ける橋」少女が願いを込めて小さな橋を走り抜ける過去にタイムスリップし、家族の絆を取り戻すという話。ノスタルジーたっぷりな時代背景に、袋井・磐田・森の各地はベストマッチ! 見覚えのある景色や知り合いも出演していて、とても身近に感じ、思わず感情移入。なんとも温かい気持ちになりました。



明日に架ける橋

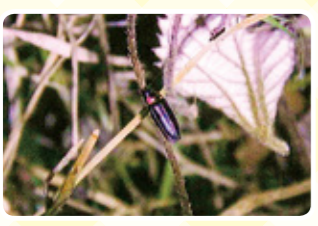


鈴木敦子

数年間市民環境ネットワーク自然環境部会の方々と「ヒメボタル」の名と存在を知りました。国内のホテルは46種4亜種存在するそうですが、原野谷川の上流などで見られるヒメボタルや他の地域で見られるゲンジボタルがよく知られており、はじめて知る名前でした。当初は興味がありましたが、何時の間にかうすれていきました。ここに部会の方々に教えを受けたことを、少し紹介します。元々は高山に生息したのですが、昭和50年に名古屋城の外堀で発見され、全国各地で確認されたようです。多くが水中で生活するのに対して「陸上」で生活するのが特徴で、断続した強い光を放つ種で、夜活動し光を媒体としてコミュニケーションを図ることに変わりないようです。陸生のホテルが流域で見られることは、自然の豊かさを表すもので、皆で見守っていく必要があると思います。



▲袋井市方丈にある通称「もぐり橋」

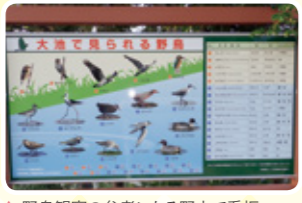


▲草むらのヒメボタル

磐田駅南東に大池がある。平成30年3月に周辺整備事業が完成し堤防ではウォーキングができる。また野鳥観察施設があり自然環境学習の場となった。この大池は今ノ浦川、太田川に流れ、湖の干満により水位が変化する「内陸干潟」で県の「今守り」の役割と駐車場やトイレもできて市民の憩いの場となった。



▲1周約1.3kmのウォーキングコース



▲野鳥観察の参考になる野立て看板

ぼう僧川にかかる陸橋のたもとに昆虫大好きスタッフが、目をキラキラさせて説明してくれる施設がある。あのゴキブリすらかわいく見えてくるらしい。一度、足をはこんで「どっぷり」昆虫の世界にひたるのも悪くない。昆虫が大の苦手だった私が、どの昆虫もかわいく見えるようになってしまったのだから... たぶん



▲昆虫自然観察公園



▲昆虫公園の少年

ぼう僧川にかかる陸橋のたもとに昆虫大好きスタッフが、目をキラキラさせて説明してくれる施設がある。あのゴキブリすらかわいく見えてくるらしい。一度、足をはこんで「どっぷり」昆虫の世界にひたるのも悪くない。昆虫が大の苦手だった私が、どの昆虫もかわいく見えるようになってしまったのだから... たぶん



電洋昆虫自然観察公園



安間美恵子

A large map of the Taikawa River basin with various icons for hotels, nature spots, and landmarks. Includes a 'PICK UP' section with a QR code and a '探してみよう! 太田川水系の魅力。' section.

Information for 'ひょうたん池自然をしよう会' and '上垂木ホテルを守る会', including contact details and a QR code.